

0

150 cm

10

SEKISUI JUSHI

20

百廿八

宗祇園虫

川平

543
ノ
3 ₁₆

543
ノ
3



宗祇一卷之圖書美葉集之日記結也
秋道之寂上殿秘事也其のこの秘之

一 百韻の行極業一返し一紙九合強信を
引合るとはたもはくくく物くもあそい
流るる

一 子白れ行極心より其事すはる心始取付
付合を推してははくくすもははは
るふこのは合也業一返し一人はは
く一白も秋えきぬは字は音る

一 西のり極の事用もた記取事記録付合

もさめ事すわろまふのふもははは
ふうはくくくははは

乙女子おとめはひすまひまひまひまひ
神の不西ははははは

疾 迷懐 神祇 釋教 うい 無常 林一記
あそい 名取 田家の外は唐 綾 美態物
うらやま 表傷 ねつ 無名の標 はんさ
おとめ おはり 鬼

一 絨物の字は事す三白の極也三三三仕極

春の季詞の事

五
星と雪方 美水 白鳥 あとる 梅の枝 美菜梅柳等梅を
極植物ニラスス
ニヤリサスニヤ
こゝ越え 熊のうら大目 子日此松 門松 何れりし者
神と心 冬を望みふ あり玉 七折みまといふ也

六
此雪意のまじ せうの海一月

七
夜更意 初花梅 二月半 冬次 春 春とむしこ

八
みじか ホト 春日糸 伴の別 初梅 露れとや

九
明歌 大空 美州 指荷糸 初卯 香の庭ふ

十
燈心のそそ出る 長栄 燈山を梅 勝月

十一
を田の心

十二
弥生 夜 春柳 浅七梅 若粘 雲雀

楓の花 鳥の巢 海ら唇 夏比りー けりー

款冬 嘘 小様 苗代名 小粘 又是の地り

美此季を書ふ

美海も 松の美みなり 亦想る美此季と云い

掉娘 桂の心 心のみなり 春の花 初春也

水母ふじ 鳩さし 美和布 戸庭のふら大目

その抱如

美二月梅橋よ夜のとれ等起すをくるとはくもの

夏此季の詞

弟のみ子 美楓 神糸 時子 春ら子木

四 春を待つ人 早苗 卯花 新樹

春の此の終 和らぐ心 春葉能くは 桐の花

美草 衣の杜若 林取 春橋

五 河をち海も 梅の面 梅の月 春をよる扉

田歌 作は月 梅のまはく 麦杖 水鷗

植田 檜 五月面 春くく 美竹 故まや

あまのし 竹おあふ 雪もあふ 菜の

幾そ起りのそ 夕吹 法道はく 秋の月 くら

な 百合科 田子 常夏 次磨の長面

六 涼 兼 河はく日 橋舟 海くも 吹 梅子

かきし 此麻 萱 春結ふ みる 清水くも

春豊月 道 夕立 秋を 泉のあふ風

風のほろ 風をけり 橋井 麻子 石竹

毛花 秋のひの ねあふの のこし 軒 麻のま

春田 春はく 此娘 春は首 あをけり 糸 秋

秋雪 春はく 橋 あせ 橋麻 春は葉

雲の春 春はく 橋 春は葉 橋 林 橋

夏三月の春 春はく 橋 春は葉 橋 林 橋

秋の季に 春はく 橋

七 夕月 春はく 橋 春は葉 橋

天川 名の池 一葉 妻ひふみ
女師毛 や次の後の七月の 玉奈 柳比る
起^秋 比ち記 神を〜 蔭ちふ 花の葉
お祭れ^{天川七夕の} 毎の後の ともう葉 本^{天川}はうり
神勢 麻の子はく 和^{カルイ}と田もふ 車^{アハセ}アハセ
葉月 萩 桂 朝^ハの 鶏 心^ハは
字^ハ花 名^ハる 名^ハ後 良^ハ葉 燈^ハ分
と〜と〜 すす〜 田^ハの名はく 斜^ハお夜
の^ハと^ハみ^ハり 葛^ハはとれ 州^ハ木^ハは^ハ分^ハ付 小^ハ燈^ハ冬^ハの
八^ハ幡^ハ糸^ハ 徳^ハ 樹^ハ衣 和^ハ出 鈴^ハ也 久^ハは^ハは

兼^ハき 田^ハを^ハふ 物^ハ房 神^ハお^ハ祭^ハ出 小^ハ燈
月 萩 露 桂 衣^ハう^ハけ 桐^ハ葉^ハの^ハか^ハも^ハく
日^ハ晚 子^ハ桂 ち^ハく^ハ休^ハの^ハあ^ハや 心^ハと^ハ木
と^ハと^ハ葉 葛^ハ 芭^ハ蕉 志^ハは^ハふ^ハ葉 心^ハや^ハは^ハく^ハふ^ハ
稲^ハ妻 桐^ハう^ハや 心^ハと^ハ妙^ハく^ハを^ハ八月^ハの^ハ甲^ハ
長^ハ月^ハ 名^ハの^ハ道^ハ う^ハと^ハ枯 名^ハの^ハ記^ハ敷 葉^ハ花
ち^ハめ^ハの^ハり 身^ハに^ハし 葉^ハ 葉^ハ 時^ハ 稲^ハ 何^ハの^ハ
名^ハの^ハ酒 葉^ハ 鳩^ハあ^ハく 葉^ハ花^ハを^ハ勢^ハつ^ハ 葉^ハの^ハ花^ハ
す^ハの^ハ記 賜^ハの^ハ名^ハの^ハ記 冬^ハち^ハの^ハ記 枯^ハ葉^ハ 出
露^ハ 葉^ハ 立^ハ田^ハ 名^ハの^ハ葉^ハ 心^ハと^ハ葉^ハ の^ハて^ハの^ハ心^ハ 心^ハと^ハ葉^ハ

岩花七夕の花 空谷の花

とくは塩八月

空谷の花合 草あり

菊法本大見

みさ山祭 ふゆあめ

秋二月咲き良花萩すし記鷺尾尾連に鷄おん是

冬に季のいと祭

時節 神霜 秋なる草 木枯 神無月

落葉 お祭あ せいー 萩さほふ

雪花とく秋 秋さき花中 枯野のこけり

神さくく 星うき婦 枇杷の花 神意

河蓮 川の木葉うたふ 庭火あく かな

よみまゆゆ 子鳥 春さる鐘 赤のく地る

とくさるし 木葉の衣 落葉衣 かつら

ちんね 美のあき

神梅 雪 春地し みる花 年のい

極月 佛北の名をさけりる 善は遠 秋草

あらし雪 みつ雪 一あらしのあき 冬を衣

冬三月秋菊はさ木梅あきる啼涙の子をさるる

雑物の神

一椿 さくら地 むらさき 河と地中 わせん所

玉も光 山姥 柏 鳴りの浮葉 やまのり

心をすくふ 玉串のふ 正月日 葛

雑物神用の事

弓神 心をすくふ日 は子日 あけし日 みるく日
心く 心をすくふ日 皇心日 飯方松巻 雑

吾所の神用の事

杉 神 床日 門日 庭 垣 堂 はら
隣 家村 里 宿 ねぐし 由 窓 開の
戸 柴松石 字北堂 堂 善心屋 管屋 神
庭 用 舟西日 小麓日 山麓 神用いふ

山敷神用の事

嶺 神 高根日 谷日 時日 曇日 おへ日 坂日
あま くし日 湯日 駒 の園日 松鳥 の峯日 鳩 の嶺日
湯 用 材日 杉木日 ともみ のま日 お板開 とま いふ 洞

心をすくふ神用の事

心をすくふ 神 善心屋日 心く く日 海日 河日 入江日
洲日 崎日 飯日 漆日 漢日 法日 湯日 竹日 流
と海の中を 境日 池日 湖日 無心神 水 そ いの 水 用
塩日 浪日 釣日 志 ふ や日 浮木日 手洗水日
心 い日 湯 は 散日

神用の外神物の事

橋 若くは焼 川 貝 竹 浮島
みふ免 海士 あこ 弟孫 浮島
子守 志平 宇治の川 龍龍 龍井
報 むろの戸 志平 志平

法の名 法の名 神の記

述懐のこと

身はあて 身と心をく 任して あこ
海や 州松 女もわが 草衣 子神神
州の事をも う記世 志平 志平

神の世 神の世 志平 志平
末神よ 志平 志平 世神の
志平 志平

神の事

その道 志平 志平 古
我の 便の 神 志平
志平 志平 志平
志平 志平 志平
志平 志平 志平
志平 志平 志平

恋のこころ事

恨のこころ事 情のこころ事 泣のこころ事
うらみのこころ事 別名のこころ事 名残のこころ事
嫉妬のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事
恋のこころ事 中身のこころ事 うらみのこころ事 西のこころ事
独り身のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事
恋のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事
恋のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事
恋のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事
恋のこころ事 恋のこころ事 恋のこころ事

連歌の付りぬこと事

夕の日暮 時雨に時の事 玉露にこころ
秋のこころ事 水のこころ事 雲のこころ事 陸のこころ事
あやめ科 油のこころ事 杜のこころ事 蘆のこころ事 草のこころ事
ゆのこころ事 ほろこ科にこころ事 住吉の神 住吉の川にこころ事

水鳥の物事

水鳥の物事 鳥のこころ事 舟のこころ事 祝の水
海川 月の水 神のこころ事 岩のこころ事 舟のこころ事

植物の可憐物事

朝のあやめ 末の雲のこころ事 藤のこころ事 稲のこころ事

〜〜〜
松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に
松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

神祇の詞

松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

釋教の詞

松の門 松の門 暮け並 藤の庵 寺の庵
うね木 流木 苔の神 妻木 柴取
柴の山 給よ書きた 寺松 林とん
美州山 春日に

おむん子 海小神の露 生死よのり
おむん ありし 世を流るる母 老のま
別う びよ けしき けしき けしき
小壇り 小松 大のりよ めき記 老よのり

非衣裳物

帯下袷の
衣巻の 帯 冠 衣と 挿し衣

可分お物之事

花の露 花の波 夕の雲 松風の笛 木
葉のあえ ありるる 月の雪 月の霜
あふれ衣 落葉のころも せうくも 橋戸

この歌あまた あまた 亦云 浪の巻 あまた 花の雪 あまた
神のはれ あまた 海曲 あまた

衣よ一有物

山笠 萩 鈴あけ 山笠 志んば 獨
炭電 長采 海人 あまた 千得 約い 法
嬉しき けしき 百子 夕よのり
あふ 麻す けしき あまた 笠 鈴あけ 燈
とく けしき 子鳥 窓 小舟 萩 簾
簾 夕よのり 岩屋 儀 巖 帰馬
橋の房 日晩 梨の護 入あひ 山笠

鷄 心と梨 凍し起のす 春の氣
朧月 雛子 鶴 春の氣 鳴けし
あふみ 杜若 持原 名所 せあふ
躑躅 橋 女房 名 呼子鳥 蝶 古松 虫
鈴虫 くらり 流 虫 夕立 夕暮 時
とら あり 老 園 夕月 日 胡月 日
あふみ あり

産上三鳥物

旅 宿 岩 采 田 夕 鳥 州
入江 情 とし 湧 夕

垣 おおの 家 時 雨 嵐 香
馬 松風 柴 取 夕 朝 すと海
秋風 嶺 恨 店 越 夕 床 越
海 岩 名所 夕 夕 庭 日 湯 日

春の月

乃月 秋の月 冬 越 月 曉 代
春風 池 五月 名 宮 庭
猿 名 替 夕 夕 名 越 夕
麻 夕 夕 夕 夕 夕 夕

産上乃乃の

神替花臨紙藤くさく栲日柳秋
栲葉松落松存松塩松文松
栲車松開松鐘松

庭四有明氷雪鳥鳥
雪有明氷雪鳥鳥

庭五物
栲替世日橋日

比類八物
比八物

二句去此物庭
庭所に栲屋くさくに村田家むらたけにま海うみ
徳家とくけ開ひらの戸とよ岩屋いわや竹田たけのにまみ

植物二句庭もの
野の山ののあり、名ははくに下萌 山を分る
埋も木をわりえ 栲の婦は 庭の二句庭もの
う庭の二句庭もの 文は時分に栲の時分 山を分る
浮き島を原木の字にあり 庭の二句庭もの
栲木ふ竹 庭の二句庭ものに無と云字をて栲字を
尔の字を 庭の二句庭もの 庭の二句庭もの 庭の二句庭もの

雲にふりか 震ふ瞳 身にしよとんじり
えの字に顧 老にふりて古に在り月ふ
日次の日口に月次の月梢に末 起ぬり
衣裳の執者に舞 羣に 神を遠し
遠 神のぬあふ 海にふ 泪列ふ 神の
降物よ 何ぞとて孝 出のあふに 人志あふ
整り 原 熊ふ 初を物 初に 命をこけふ

三句を之物

月と日と星 陰あふ 婦の物 降物よ 控ひ
きこふの 木よ子 出に鳥 鳥ふ 獣

名所ふ ぬいふ 山とてん 事とてん

五句を之物

同字 日と日月と月 夜と秋 木と木
草と子 獣と獣 鳥と鳥 出と出 意と意
恨ととみ 様ととみ 吾所と吾所 夕と夕
述懐と述懐 釋教と釋教 神祇と神祇
衣裳と衣裳 山と山 無常 聖物
植物 鳥 出 風 神 雲 煙 燈 吾所
道 水

七句を之物

衣帯や竹田は毎路若海月松花七白を編み

痛廻の事

薫と云ふに云ふあつと付そ又お祭と云ふ付
おふと云ふより一様といふお果とはおてまこ
柴あくねとあるし

遠痛廻の事

花といふるよ風もも雲もも付くお一彦の目
しつこのお路をいお海しつら

奉歌取扱の事

なるお渡ぬわしにの取は位

水邊にそくねる物

官屋 履のあき 中田返り 布きり 星の
糸糸 七文糸糸 あきり 駒の渡 字原のわき糸
硯水 神引糸 湊川 月の光 神のちり
岩く あきり 宝 備物 八鳥 備物 糺は備
任右 日 志 あき は物

閑の煙板

山を閑いお歌も煙 浦よ有雲い水をよお煙
お分はくあきしもの事

お路の月 ちれなこ 天曉 袴の糸 着の

せ 常燈 うじ社鳥 友子子 ぎく火

穀分此事

水鶴 水秋 燈を火 蓮 枕 燈 明 月 曉

句数の事

春禱 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句
そ〜 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句
極述 懐 釋 散 懐 旧 山 秋 水 色 存 前 二 句 五 句 五 句
五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句

二句を五句とする物

植物 人 備 生 秋 天象 律 節 の 物

人 備 の 事

人 といふ 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句
親子 誰 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句

人 備 五句 五句 五句

月 女 月 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句 五句
親子

待 用 の 事

待 用 の 事

五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句

五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句 五 句

春郡

一橋よの苑霞 白婦 贖母琴 心と
心と海 殊る事 号 紅 暮をこ 柳意
久方 取口 昔 難波 泊瀬 神春 大坂
と心風 神多 神中

一柳皮 心電 みる 新 道 野色 皇代末
さとい といけい 鶯の 好風 岸 清水

河 櫻花 心 清 起 門

一橋よの苑 梅 青柳 菽 躑躅 欽冬 雲
霧 古燈 心電 暮末 布引の 橋 立田山

一と 家 富 全 持 け 嵐 心 高 妙 能 花 の 人

一遠山 床 河 くら 春 風 雪 心 山

一暮 子 夜 雪 音 燈 人 古 燈 春 日 野 小 燈

一生 田 夜 手 心 兼 日 春 と 心 神 と 心 と

一と 心 心 暮 夕 心 心

一と 心 心 心 心 一 兼 持 心 心 心 心 心 心 心 心

一と 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

一山 吹 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

一井 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

一藤 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

浪あやめ 舟燈明時

一 燈火夏山 村田 小川 梢 木多記勢

う次衣 夜衣

一 菴に秋を 津水 おまひ 神くはむ

おのれ ちゆふ ぬくま ぬくま 河色

秋風 雲然人

夏郡

一 卯花よ 月時季 雪 雪 存 庭 くら次

系記

一 橋よ 形 橋 人 志 一 む 新 一 時 季 小 橋 記

一 蜀 魂 夫 志 の 心 社 む ち 田 山 跡 日 明 葛 藤

徳 子 心 子 月 田 一 勢 ち ち ち ち ち

一 更 夜 夫 花 多 一 寸 寸 一 友 記 一 青 葉 の

小 菴 舟 舟 入 扇

一 杜 多 夫 志 津 花 水 あり 記

一 水 鶴 夫 志 橋 の 戸 管 記

一 梅 子 夫 志 橋 の 情 露 涼 一 大 和

園 河 一 舟 舟 原

一 葛 藤 夫 志 五 月 田 渡 道 橋 記 引

一 夕 顔 夫 志 一 宿 扇 む 新 河 道 記

露の門を ぬす時 燈のあきて

一 時よのあけあき 秋の夕言 津 荊田

とく 秋の夕言

一 松虫に 嵐山を 女を忘の 音 ともよ

とく 秋の夕言

一 秋虫に 夕言 秋葉 壁 恨 ともよ

一 思ふよりの 忘 ぬく 夕に 雲 形 影 ともよ

一 ねんれよの 神 勢 ともよ 秋風 ともよ

ともよ 秋の夕言

一 千子の 心 け 緑河 白 秋 一 葉 扉 の ともよ

ともよ 秋の夕言

一 麻よの 秋 時 雨 入 燈 ともよ 房

ともよ 秋の夕言

一 徳よの 秋 ともよ 雨 ともよ 秋 ともよ

ともよ 秋の夕言

秋の夕言

一 秋葉よの 麻 時 雨 林 ともよ ともよ

ともよ 秋の夕言

一 秋よの 山下 夕言 秋 ともよ 秋 ともよ

ともよ 秋の夕言

一 女即ちまの せうの燈 おもふ山 名ふれま

一 春にさ うらみ ありけ 松風 浦吹風
あま風 忘るや なる

一 槿よの 夕あふ 志能め 何したる 月
は地帯を

一 春よの 山田 みるけ 千絲く の入燈 あま

一 春よの 山依 我宿 白露 蘿 庭 星
うけし ぬ 糸 子世 海をよま

一 鶉よの おとれ せま 涼草 春 油り入
に日 あり燈

一 鶯にさ 花梅 様 勝栗の月 とら歌の
あま海の人 くる なるや 音消ぬ 岩の石

一 山とせ 燈人 春よ 春れよれ 記たよと雲
山とせ 燈人 春よ 春れよれ 記たよと雲

一 春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ
春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ

一 春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ
春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ

一 春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ
春よの 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ 春よ

雪 ぬきけ里 山あそび

一 小橋よりあそぶ 後 其れ 日影 ぬき

冬部

一 落葉少き 玉枝 霜 夜 春風 時節

山あそび 山あそび

一 子馬よりあそびし玉枝 穢まらう 夜 雪

いと 来 冬はよ 川 山あそび

一 忘らぬよ 月ととも 六の葉 定れぬ 麻

雲 嵐 山あそび

一 雪より 妙る山と 山里 海より 冬 山あそび

冬と雪里

一 雪にき 松原 小庭 深山 玉枝 山あそび

山あそび 玉枝の 来ととも

一 霜より 鐘 落葉 橋より 山あそび

一 松より 後右 橋 霜 山あそび 山あそび 風

山の中 山あそび

一 浅草より 山あそび 宿 夜うけ 山あそび

山あそび 山あそび 山あそび

一 蘆より 山あそび 入江 水 山あそび 山あそび

一 山あそび 山あそび 山あそび 山あそび 山あそび

一 芳江の空は舟の山 舟は秋 舟は道

一 藤江の舟は舟の舟 舟は舟 舟は舟

庭 舟は舟

一 鶴江の子と思ふ 林 舟 舟 舟

舟は隣

一 鷺江は渡船 河邊 舟 舟 舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

月 舟 舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 舟は舟の舟 舟の舟 舟の舟

一 宇治の 曉のそら 山川 紫の橋
螢の光を 衣のし 起る 名木 中記
燈 志ま 郡

一 伏見の 竹の音 磯の雲 深田池

一 深草に 花の 燈の色 山をこら 勢 墨深

一 嵐の 松の 影を みる ありき

一 大原の 小塩の 雲を 小松を 一 柳を

一 なる 山を 梅を みる 夕月 東 花の

一 花の 山を 花の 影を

一 夕月 東 花の 影を みる

一 泊瀬の 海士の 舟を みる 記 花の

一 杉原 橋の 中を みる 鐘

一 夕月 東 花の 影を みる 白浪の

一 夕月 東 花の 影を

一 吉野の 橋を みる 滝川 具の

一 霧の 夕月を みる 春の 吹風

一 霧の 夕月を みる 春の 吹風

一 霧の 夕月を みる 春の 吹風

一 霧の 夕月を みる 春の 吹風

一 霧の 夕月を みる 春の 吹風

す ことばの次

一武蔵野の 遠きを記すの如き風 如き花
遠きなる 市井の如く 雲は下界 草は上界
山の月 日

一須磨の浦の 夕暮の如く 暮れに橋
塩くむ 燈分 於海士 上燈 ことばを
一難波の 梅寺 入江 暮 鐘 ことばを
何より 月

一あはれは 月 なる ことばの 如き
一何者か 遠き少燈 春 忘 州 以

布 林

一浦の あり 少 秋 ことば 子鳥

一よふことばとことばと更し 志の如く ことば
わたり 人の 想 名 也 猿 鳩 ことば 事 人の ことば
事 ことば ことば 日 事 ことば 子 園 ことば 人 事
園 ことば 事 ことば 人 ことば ことば 子 鳥 ことば ことば
ことば ことば ことば ことば

一玉の けしき ことば ことば ことば ことば ことば
ことば ことば ことば ことば ことば ことば ことば
ことば ことば ことば ことば ことば ことば ことば
ことば ことば ことば ことば ことば ことば ことば

和歌もこれあれはとれは後をせり
夕月東おわつのはるふ時を二つ人の浦の明てこそを
此身はほろ夕月東のつらふまは晴のつら
あそく有貴わが門のわらふまは

はなれをうへの事

あのわがわがはなれをうへの事
あの歌をこれほろふあそくわらふまは
はなれをうへの事
事りあそくわらふまは
はなれをうへの事

をうへの事
川あはなうへの事
返ははなれをうへの事
つらふまは
まはなれをうへの事

一 粒の赤子ははなれの重なるはなれをうへの事
むすし人なはなれをうへの事
あそくわらふまは

つらふまは
あそくわらふまは

八中回

一 志を孝にとも お徳の事

一人をまげつらば 死するいふ事とわづらふ事

一 玉のをすつとらふ事 志をこころにまかす

いひのこころにまかす

一 あはなをこころ 合ふあはなをこころ

一 志をのこころにまかす 冒徳の事

一 徳をこころにまかす 志をこころにまかす

一 おふねをこころにまかす 志をこころにまかす

後よりよむすまの事

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 志をこころにまかす 志をこころにまかす

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

源氏

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

一 玉の巻ふあふ糸のあふは 秋の夜をとりし

夏物の

- 一霞と霧に弦を秋の春物事
- 一橋と梅弦を夏物事
- 一鶉衣片うら紀衣物の
- 一雲の袖ちいさ紀物事也
- 一そりぬ川よみふ付中何あそび
- 一笠と紀といちいさ紀物事すね物事
- 一鶴のくしきは鳥二翅をなへて橋上渡り
- 一みぎ山糸七つより付
- 一をみ衣 神祇ふ米

- 一あはれさうさう物事 一草こら琴物事物の
- 一鐘波を流す神事なまこら夏物事
- 一むく休といちいさ秋物事也
- 一六の冠といちいさ物事物の 六の玉物事物
- 一ぬき玉といちいさ物事物の
- 一草花あそびといちいさ物事物の
- 一そりぬ川よみふ付中何あそび
- 一春日ぬきりに武藏物事といちいさ物事物の
- 一そのひらりといちいさ物事物の 岩屋竹物事

春とて孝 世絶うはをのるは事な
物かひりしうふ白よは付らう〜ちまの何毛
その語の名あし事い

一とてふとふ白よ 春の名葉 莖 山あにふ
あし事い 春の名葉のいろ 秋を 秋を 権
おら 葉の色 麻のり 梨のいろ 冬 雪のいろ
あし事い 何とてい 雪のいろ 春の付ははる
衣の名あし事い 秋

一丸の糸は 極楽の事
一世よははは 世よはの事

一むむるは事 じん雪とやあはる極まへんは
一泊瀬寺は事 山〜河あはる 春の山
極清見はと浦はあはるに水の事
とてはるあし

一草は死る〜とて花の名は 春の草花
一あはるの心は 春の事とて 春の事
一夜は あはるの事 春の事
一杉木とて 春の事 又 春の事
一生田とて 春の事 又 春の事
一賤物 春の事 山橋 夜道

一 木を伐りて〜
一 木を伐りて〜
一 木を伐りて〜
一 木を伐りて〜
一 木を伐りて〜

野の宮神祇あり

一 山姥の宮に木ありて〜
一 坪屋夜いとも〜
一 志の宮に木ありて〜
一 焼火 梨分り〜
一 雲はほろ〜

一 宍鴉 名をとて〜
一 滝津殿とす〜
一 淵と申す 山類あり〜
一 室は八嶋と〜
一 む〜の神を〜

雲の神ありては〜
祭の事

一 跡福 卯の〜
一 藤の〜
一 栂と云字に木ふ〜

母の木のまゝ白〜

一 木の庭 ひとふれ ことばも也

一 なまこし ことば ことばも也 ことばも也

一 子まふ 扇 ことば 月 下 ことば

一 花のあふとは 梅あり

一 くれの

一 葉はみよと 酒の事

一 雲の上の菊と 大目の事也

一 花はうきと ことばも也

一 名前 ことば 風有 泊瀬 佐保 飛鳥

一 名あよとのことば 次庵 片岡 小笠

一 四季 種と 梅子 ことば 四季に花咲も也

一 ことば ことば ことば ことば ことば

何れも ことば ことば ことば

一 鐘草の四季に ことば 春の 大根 夏の ことば

秋も ことば ことば ことば

一 ことば ことば ことば ことば

一 青葉の ことば ことば ことば ことば

ことば ことば ことば

一 白衣と ことば ことば ことば

一 ことば ことば ことば ことば ことば

一 新築のりしとて 麻の事
 一 大和川とて 泊瀬の川の末に事
 一 酒の類とては 童に事
 一 斜に夜の宮とて 伊勢の宮の事
 一 橋葉の宮 如野に事
 一 子とての類 伊勢の宮の事
 一 秋を衣 衣をたつた別の宮とての事
 一 岩まうとては 衣をたつた別の宮の事
 一 庭の琴とて 大目寺に借りの事
 一 新築の橋 衣をたつた別の宮の事

一 衣をたつた別の宮
 一 大目寺に借りの事
 一 新築の橋 衣をたつた別の宮の事
 一 庭の琴とて 大目寺に借りの事
 一 岩まうとては 衣をたつた別の宮の事
 一 秋を衣 衣をたつた別の宮の事
 一 子とての類 伊勢の宮の事
 一 橋葉の宮 如野に事
 一 斜に夜の宮とて 伊勢の宮の事
 一 酒の類とては 童に事
 一 大和川とて 泊瀬の川の末に事
 一 新築のりしとて 麻の事

紀國の神々を記す

- 一 于浮の鏡 伊勢の神代巻の是紀國に有
- 一 難波女とは 山神の事なり
- 一 泊瀬女とは 山神の事なり
- 一 萩の戸 うんぎの事なり
- 一 卯花雪 お月夜 卯花の事なり
- 一 紫雲 大月夜の中 萩の戸にあり
- 一 萩屋と 大月夜の中 植する萩の事なり
- 一 松花と 百重に一度は 咲く事なり
- 一 ぬいよてぬいよと なる事なり

西の山を伝ふ事なり

- 一 初嵐の七月一日にあり 嵐の事なり
 - 一 松の神と 春の事なり 緑の事なり
 - 一 おはるる海に 湖あり
 - 一 なるてふ海に なる海也
 - 一 氏草の 百姓の事なり
 - 一 吉野の事なり 紀國の事なり
- は後のあり 紀國の事なり
- 一 吉野の事なり 紀國の事なり

一 名をたぐみふと 伊勢に有名なり也

一 ともいひかりの五月五日茶のそとをり

万代その後かきふ

一 竹の里 名是 備中に有 和風の里 杉をり

能里 名是 二百里 備中にあり 此個物

付あり 一 兼てむの里

一 竹浦 竹橋 名是 備中にあり 此個物

一 一河の里

一 膳の清水 春 名是 大原の里 小有

一 霞の如く 名是 備中にあり 此個物

一 難波の如く 名是 備中にあり 此個物

と云はれし 一の事 如く 成り 此の事

一 志賀の如く 名是 備中にあり 此個物

一 ともいひ 風の如く 名是 備中にあり 此個物

風をともはる 名是 備中にあり 此個物

一 難波草 名是 備中にあり 此個物

一 藤取 名是 備中にあり 此個物

一 おもひ 名是 備中にあり 此個物

一 須磨の心 名是 備中にあり 此個物

氏 名是 備中にあり 此個物

事なるの如きも亦也此處より其の事と付
これ等類あり

一泊瀬のありし事其の事多し昔大浦
なりし時何人任く釣をすも是の
海士の親音にきくゆへに泊瀬のあり
をゆききつ句にてもめてせぬあり親音
のあり泊瀬より其の事と付也昔
海士有ふより其の事なり

一^格うきれ^名志屋 ^名志屋
一國の都とは 國は後和の事也

一琴引志屋とい 八幡の浦いもこれと
一玉の流姫とい 高島山に流姫とい

一たふ新しとい 鞍馬山の事名を祭
源氏の大将とい 志屋とい時なり
志屋といは流姫とい

一志屋といは流姫とい
一志屋といは流姫の子とい 志屋といは流姫
一志屋といは流姫の子とい 春日に有け家の
志屋といは流姫とい

一 常れを記 河内山有

一 常の跡 高師山あり

一 聖跡あり 多道河内山有

一 小麓の下水 巻をわく此流の水也

一 巻れを原 非を任ぐにあり系ねる事也

一 此をけり孫と 桃の記の巻を也

一 ありしはとありの松の事人丸の松の松

のことも也 昭名の付合なり

一 古流の中ありし 女中も此事この秘

一 管の庭を

一 岩間柏の海中 光の付く松の記とくま

のことも也

一 小をさのり 光の記の白と云任者ふり付

一 玉ありまをりふり 海との貝と拾ふ

一 玉柏の海中に有るの事 ねとひふ

ありし事なり付

一 思手柏と云をさし 此事この秘と難波

よりはちやふ

一 古の中一の園大あり有とて 此を美を

梅子さし梅の

一梅を杖うたふ 正月七日大目ふく梅を

糸所一幸舞事口傳

一卯杖とは 正月七日大目(此調物を杖う

糸所人志はく杖の事也)の事(所を

糸柳椿乃杖をさりて四尺五寸)

切て五寸これにさしあはし二尺をさして

糸所一幸舞事

一梅を子種といふ事 古今二番め杖也

一ある光の琴といふ事 人丸東へ下給ふ事

むと一杖たはれり墨に二幸伝す事

時はくりともあはる一杖といふ事

糸所一幸舞事

一次度よび舟といふ事 舟成の古たる舟の事也

一白千鳥といふ事 杖といふ事

一後川の鳥の事 杖といふ事

一糸所の調子 杖といふ事

一糸所の調子 杖といふ事

一糸所の調子 杖といふ事

糸所一幸舞事

一糸所の調子 杖といふ事